

## 【話題提供】

～ “ツボ” から実践への事例～

ファシリテーター 寺子屋三粒の種

塾長 木村 航氏

### 1) ファシリテーターからの投げかけ

私は午後のプログラムで進行役を努めますが、今から準備としてどのような事をするか、説明いたしますのでお付き合いください。

本日のテーマは“ツボ”から“次なる一步”へということになっています。昨年は“ツボ”とは、というテーマでした。それを踏まえて、次の一步へ踏み出すにはどうしたら良いのかということ、考えることが私達全体のテーマになっています。

昨年のフォーラム終了後、とびうめの会で、県内の文化ボランティア団体に向けてアンケートを行いました。内容についてはこれから代表の田中さんからお話頂きますが、そのアンケートから見えてきたものが三つあります。今回のフォーラムに関して思いが三つあるということです。

一つは、昨年話し合った“ツボ”の中から「具体的な実践をした」という団体がありました。それについて話す事で、次の一步へ踏み出せるかも知れません。

二つ目は、今、大変な課題がもち挙がって悩んでいるというその「悩み」をいろいろな人に聞いて貰いたい。

三つ目は、今、活動している中で、他団体とあまり交流がなく、異分野の団体と交流したい。

この三つの願いを、午後からのミニ分科会で解決できるような時間をつくりたいと思っています。

皆さんに協力頂きたいことがあります。今朝、受付で受け取られた資料の中にA4紙が入っています。表裏に書くようになっていきますので、ご確認ください。

午後一時半から始まるプログラムの中で、皆さんから「〇〇について話したい」と思うお題を出して頂き、その題に興味のある方が集まって話合うという形式で進めていきたいと思えます。

午前中、これから話題提供を三例して頂きますが、話を聞かれて思い浮かんだこと、これを話してみたいと思うことを、12時までには先ほどの用紙に書いて頂きたいと思えます。

先ず、1枚目実践例“私達の踏みだした一步”2014年のフォーラムで“ツボ”について話し合いました。資料の中に要約版もありますので参考にしてください。「私達はこのようなことを実践したよ」という方、是非書いてください。午後その具体的取り組みを、集まった方々に語ってください。

一方、裏面には“このフォーラムだから話せる悩み”今、所属されている団体で関心が高まっていること、解決していない目前に迫っている課題や悩みを書いてください。午後はその悩みを存分に聞いて貰って、解決法を話し合っ、次なる一步を見つけてみましょう。三つの課題より共感性の高いものからピックアップして、話し合いのテーマにしたいと思えます。

2) アンケート回答から見える“私たちの今”

NPO 法人文化ボランティアとびうめの会

代表理事 田中 正治氏

回収 38 団体 (約 3 割)

**設問1 「サブテーマ」と“ツボ”で興味を持たれた項目とは？**

	「サブテーマ」と“ツボ”	個数
A	ボランティアと行政に溝はあるのか？あるとしたら埋められるか？	12
B	世代交代や世代間のコミュニケーションはどうすればよいか？	11
C	誰がボランティア活動を担い続けていくのか？	16
D	ボランティア同士のコミュニケーションを深めるには？	10
E	私は役に立っているのか？私はここにいていいのか？	8
F	ボランティアを楽しむとは、どういうことか？	16
G	マンネリに陥らないために、何をしたらいいのか？	10
H	資質を高めるにはどうしたらいいのか？	18
I	定年はあるのか？交通費や対価は受けているのか？実情は？	9

**設問2 興味を持たれた理由とは？**

- A : 行政担当者が代わると今まで積み上げてきたモチベーションが下がる。なるべく長く在籍して欲しい。
- B : ボランティアの高齢化が進行し、世代交代は最大の課題である。
- C : 少人数で過剰な活動をしており、個々への負担が大きくなっている。新人の募集が一番の課題、また新人をどう育てていくかも課題である。
- F : ボランティア活動は楽しむことが根幹である。お客さまに喜びや感動を与えることが自分の楽しみにつながると思う。
- H : 興味のある講座は受講するが、関心のない接遇などには積極的に受講しない。

**設問3 「サブテーマ」と“ツボ”で参考(気づき)になった、あるいは**

実践できた項目がありますか？

① ある	参考になった。	23 団体	(参考と実践に重複あり)
	実践できた。	11 //	
② ない		10 //	

#### 設問4 項目が「① ある」と回答の団体で、

参考になった「サブテーマ」と“ツボ”とは？

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
団体数	7	5	6	4	3	7	8	5	9

A : 行政には異動はつきものだが、担当者によって活動の広がりやサポートするボランティア側の意欲が変わる。

B : 活動の場・時間が限られているため、コミュニケーションを深める機会が不足しているという気づきを貰った。研修会の実施などを考えたい。

C : 誰がボランティア活動を担い続けるのか・・・について、今の活動が、そのための材料（担い続けていく価値）を持っているか否かが問題であることに気づかされた。

F : ボランティアを頑張り過ぎないこと。できる人が、出来るときに、出来ることをする。

自分が住んでいる街を素晴らしいと自慢できる程に興味持ってやること。

G : マンネリに陥らずモチベーションの向上を図るには、常に新しいことに取り組もうとする意識を大事にすること。

H : 初めてボランティアをする人は気負い過ぎる傾向にあるから、「自分が出来ることを頑張ればよい」ということに気づき、そして常に自己研鑽が大切であるという気づき。

I : 対価の形はお金だけではない。だからこそボランティアは、遣り甲斐や達成感などを味わってほしい。

#### 設問5 項目が「① ある」と回答の団体で、実践できた「サブテーマ」と

“ツボ”とは？

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
団体数	2	2	1	5	3	4	2	5	2

D : 既に小グループでの話し合いの場を作っているが、ボランティア活動に関係ない雑談話も出て、結果的に会員間のコミュニケーションが良くなりつつあることを感じている。

F : ボランティア一人一人の興味あることを出し合い、グループを編成して研究を進めている。この研究活動から交流も深まり楽しみながら資質の向上にも繋がっている。

H ; 所属団体での活動の意味・目的を、この“ツボ”を読み合い、話し合うことで、自分の役割が何か、自分の感動と相手の感動を共有することの大切さ、などを学んだ。

## 設問6 実践した結果 「良くなった」と回答の11団体の事例

- ・ ボランティアの出席率が高くなった。

ボランティア活動に積極的になった会員が増えた。

ボランティア間のコミュニケーションが深まったことを愉しむとともに、自主的・自発的に取り組んでいる会員が増えた。

「自信を持って活動する」という意思を持った会員が増えた。

「交流会／研修会」に会員、会員外にも参加してもらい、会を知ってもらう機会を増やした。そのことで会員間の交流が活発になった。

ボランティアに交通費と食事を用意し、お互いの負担にならないようにすることで、メンバーの定着がすすんだ。

情報誌作成のなかで、仲間ボランティアへの取材をした。その結果を含めて新規ボランティア募集をしたところ、新規ボランティアの申し込みがあった。また取材に応じた仲間もさらに活動を頑張っている。

## 設問7 これからの10年に向けて・・・、どう踏み出したいと思いますか。

- ・ 今までの経験を生かし、コツコツと地味に続けます。
- ・ 会員の高齢化が著しく若い世代の参加を促したい。
- ・ まずは、後継者作りが急務である。
- ・ 活動の維持、研修等による資質の向上、さらに自立したボランティア活動をめざしたい。

《取り上げて欲しい課題》

- ・ ボランティア団体の組織化を図りたいが、そのノウハウと組織運営の課題等を知りたい。
- ・ ボランティアに自主性や自立性を求めたいが、伝え方が分からない。

《文化ボランティアの種類による回答》

- ・ おはなし会（読み聞かせ）： 若い方の入会を誘い、後継者にバトンを渡せる土台づくりが出来たらいいなと思う。

- ・美術・博物館 : これまでボランティアとして活動してきた人が、達成感を持ってもらえるように頑張りたい。

地域にとっての身近な博物館「地域自慢の施設」として愛着を持ってもらえるよう、その橋渡し役としてボランティアの皆さんに頑張ってもらいたい。

- ・学生ボランティア : 学生は4年で入れ替わるので、先輩から後輩へ「知の継承」に係る報告書（文字・映像）の作成が重要である。
- ・ガイドボランティア : 後継者の育成と、ガイド案内エリアの拡大やガイド内容の勉強会が重要である。

高齢化のためこのままでは消滅の可能性もある。若い人を取り込んだ観光案内ボランティアを育てるにはどうしたらいいか。